

# 追手門学院大学

# 国際学部物語

## 国際学部の豊かな学び(2023)

本冊子収録の学生の活動レポートは、追手門学院大学のホームページに掲載されたものです。

1. 「夏期短期語学留学 (UC Berkeley)」(グローバルスタディーズ専攻)	
1.1 快適で発見に満ちた留学生活・「Be interactive!」と「無知の知」	3
1.2 「楽しさ」、「嬉しさ」、「チャレンジ」に満ちた留学体験と人間関係の大切さの再認識	5
2. 「夏期短期語学留学 (NICE)」(国際文化専攻)	6
3. 「ダブルディグリー」プログラム (国際文化専攻)	8
4. 「コンセントレーション・パッケージ (CP)」	
4.1 「グローバル・ビジネス CP」(グローバルスタディーズ専攻)	10
4.2 「英語プロフェッショナル CP」(グローバルスタディーズ専攻・国際文化専攻)	13
5. 「高野山・OIDAI グローバルプロジェクト」(課外活動)	14
6. 「知的財産判例セミナー発表 (3大学合同プロジェクト)」(3年次演習)	17

## 国際学部の豊かな学び(2023)

国際学部では、2023年度、カリキュラム上で展開している5つの留学プログラムのうち、3類型・4プログラム(下記の(1)~(4))を無事終了することができました。

本冊子は、(1)グローバルスタディーズ専攻の学生を対象とした夏期短期語学留学(米国カリフォルニア大学バークレー校(UC Berkeley))、(2)国際文化専攻の学生を対象とした夏期短期語学留学(米国ハワイ大学マノア校NICEプログラム)、(3)ダブルディグリー・プログラム(ハワイ大学カピオラニ・コミュニティーカレッジ(KCC)での長期留学プログラム)、(4)コンセントレーション・パッケージ(CP)(4.1 グローバル・ビジネス CP、4.2 英語プロフェッショナル CP)、(5)高野山大学・OIDAI グローバルプロジェクト、(6)知的財産判例セミナー発表(3大学合同プロジェクト 3年次演習)、それぞれに参加した学生からの“Transformative & life-changing experience”に富んだ体験記を収録しています。

これら体験記は、いずれも追手門学院大学のホームページに掲載された学生のレポートです。

執筆者

23WA058	中野 幹太	「夏期短期語学留学(UC Berkeley)」 <a href="https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17214.html">https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17214.html</a>
23WA120	三木 彩菜	「夏期短期語学留学(UC Berkeley)」 <a href="https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17215.html">https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17215.html</a>
22WA123	末広 陽菜	「夏期短期語学留学(NICE)」 <a href="https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17216.html">https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17216.html</a>
22WA086	石見 優果	「ダブルディグリー」プログラム(KCC) <a href="https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17835.html">https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17835.html</a>
22WA119	Catherina Allenfant	「グローバル・ビジネス CP(シリコンバレー・スタディツアー)」 <a href="https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17217.html">https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17217.html</a>
22WA032	坪井 海妃	「英語プロフェッショナル CP(アデレード大学)」 <a href="https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17218.html">https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17218.html</a>
22WA038	宮崎 遥平	
22WA073	會澤 堅進	
23WA044	HINDUPUR SRINIVAS GAUTAM	「高野山・OIDAI グローバルプロジェクト」 <a href="https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17836.html">https://www.otemon.ac.jp/cis/abroad/report/_17836.html</a>
21cc029	江川 慶	「知的財産判例セミナー発表(3大学合同プロジェクト)」 <a href="https://www.otemon.ac.jp/_7622/cis/abroad/report/_17843.html">https://www.otemon.ac.jp/_7622/cis/abroad/report/_17843.html</a>
21cc039	橋本 清加	
21cc158	齋藤 翔太	

アメリカ University of California, Berkeley

中野 幹太 国際学部 国際学科グローバルスタディーズ専攻 1年

快適で発見に満ちた留学生活・「Be interactive!」と「無知の知」



この夏、私は、カリフォルニア大学バークレー校に留学しました。バークレーや周辺のサンフランシスコはアジア系やラテン系だけでなく、欧州各国からの移民も多く、様々な国の集住地区があるため、多文化共生社会のありさまをリアルに体験したり実感したりすることができました。結論は、「とても過ごしやすいところ」でした。

大学では、ボキャブラリーを学ぶ授業 (Academic Vocabulary) と、フィールドワークを行う授業 (Berkeley Experience) を受けました。Academic Vocabularyでは、語源について学びました。単語の意味を深く学習することで、単語の成り立ちや多様な語法について学びました。Berkeley Experienceでは、美術館や街の歴史的な建造物を訪ね、自分の目で見て感じたことをその場で英語で話し合ったりしました。

留学に行く前と行った後では英語を話すということだけでなく、「会話」そのものに対する姿勢が大きく変わりました。現地で授業を担当してくださった先生が“Be interactive”という言葉をお教えました。Interactiveとは、「双方向」という意味です。つまり双方向的にコミュニケーションをしようということをお勧めされました。海外では、何か言われたら必ず返し、間違えてもいいから自分の意見を言うことが大切です。これをしないと授業や会話に不参加であるとみなされます。自分が最初に発言するというのは難しいですが、せっかく思っていることがあるのに発言しないのはもったいないと思い、誰かが言う前に自分の考えや意見を発言するようにしました。次第に発言することに抵抗が無くなり、会話が楽しくなりました。また、日本に帰ってからも自信を持って自分から発言できるようになりました。

留学に行って気づいたことは、思ったより自分が日本のことを知らないということです。授業内で、また、大学外で現地の方とお互いの国の話をする機会がありました。日本の文化や歴史についてはある程度知っていると思いましたが、いざ説明しようとなると知識不足でうまく説明できませんでした。現地の方にアメリカの歴史や場所について聞くと、歴史をたどりながら丁寧に教えてくれました。海外の文化を学ぶと同時に、もっと日本のことについても知らなければならないと自分の無知さを再認識しました。

留学は主に語学力を伸ばすために行くと思われがちかもしれませんが、ちょっとした気づきが新しい学びのきっかけになったり、海外で活躍したいという気持ちが強くなったりします。物価が高い、ホームレスが多い、無人の車が走っているなどの驚きや発見が連続した3週間という短い滞在期間でしたが、留学し生活した街が好きになりました。

私は、一年生の夏休みという入学後早い時期に海外留学ができ、日本では体験できない様々なことに気がつくことができました。そして新たな目標ができ、その目標を実現するために、今、努力をしています。このプログラムに参加してよかったです。





入試情報サイト  
(入試ナビ)

大学紹介

学部・大学院 / 教育内容

キャンパスライフ

国際交流・留学

キャリア・就職

研究・産学官連携

施設

社会連携・社会貢献

資料請求

アメリカ University of California, Berkeley

三木 彩葉 国際学部 国際学科グローバルスタディーズ専攻 1年

## 「楽しさ」、「嬉しさ」、「チャレンジ」に満ちた留学体験と人間関係の大切さの再認識



2023年の7、8月にカリフォルニア大学バークレー校に3週間の短期留学をしました。今回の留学は、「楽しさ」や「嬉しさ」、「難しさ」という3つの単語で集約することができます。アメリカ文化への適応、コミュニケーションの取り方、チップ文化などです。もちろん授業は本当に楽しく、意義のあるものでした。また、フィールドトリップなど、サンフランシスコや大学近辺のバークレーの町並みをはじめとし、様々な場所を訪問するなど「楽しさ」を思う存分味わうことができました。

しかし、楽しさの反面、初めての場所で分からないことを英語で聞いたり、やりとりをしたりすることはとてもチャレンジング（難しく）で、毎回ドキドキしたりハラハラしたりしていました。

一方、今回の留学で同じグローバル・スタディーズ専攻のメンバーと、とてもなかよくできたことを嬉しく思っています。総持寺のキャンパスでは普段話さない人たちと授業を通して一層仲良くなることができました。また、留学中遭遇したトラブルを、メンバーみんなで協力して自分たちの力で解決することができました。高校の時のように、クラスメートと何かを協力して達成することなど、大学ではないだろうと思っていましたが、日本から遠く離れたアメリカの地で、メンバーが団結して困難（チャレンジ）に立ち向かうことができたことは、とても「嬉しかった」です。

二枚の写真は、授業のフィールドトリップで船に乗り眺めたサンフランシスコです。風が強かったけど、天気が良い、とても気持ちのいい体験をすることができました。

もう一枚は、大学のキャンパスを歩いている様子です。大学のキャンパスは広大で、何度も道に迷いました。写真は、校外学習に行く途中で友達と話しながらどんな場所に行くのかワクワクしながら歩いている様子です。



入試情報サイト  
(入試ナビ)

大学紹介

学部・大学院 / 教育内容

キャンパスライフ

国際交流・留学

キャリア・就職

研究・産学官連携

施設

社会連携・社会貢献

資料請求

アメリカ University of Hawaii at Manoa

末広 陽菜 国際学部 国際学科国際文化専攻 2年

## 「学び」と「驚き」の連続であった3週間



私は、アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島にあるハワイ大学マノア校で3週間の短期留学をしました。実際にハワイ留学に行き、学んだことや驚いたことがたくさんありました。

ハワイに着いて、初めに学んだことは積極的に話しかけることが大事だということです。ホストファミリーと話すことに初めは恐れていました。初日は、ホストマザーが話を振ってくれましたが、自分から話すことも大事だと思い、次の日からは「今日の授業は何をしたのか」、「放課後は何をしたのか」、「週末は何をするのか」などを積極的に話しました。そうすると、話を広げてくれたり、おすすめのお店を教えてくれたりするなど、話題が一気に広がりました。また、日常生活で分からないことがあるときには、迷わず質問することで優しく教えてくれるなど、ホストマザーとの関係性が深まり、安心して生活できる人間関係を築くことができました。

大学では、授業についていけない不安でしたが、先生がとてもエネルギーで自分たちのレベルに合わせてゆっくり、はっきりとした英語を話してくれたので理解しやすく、充実した時間を過ごすことができました。毎日朝8:30から12:30まで授業があり、グループやペアでの活動やディスカッションを中心に授業が展開されました。クラスでは韓国からの留学生といっしょに学び合い、多くの友人を作ることができました。また、週に2回、ハワイ大学に通っている現地の学生と1時間程話す時間がありました。私はこの時間がすごく好きで、お気に入りでした。またNICE プログラムの参加者全員でフラをし、フラの歴史や意味を学ぶなど、ハワイ文化に直接触れることが出来ました。

放課後や休日は、ワイキキやホノルルのショッピングモールに出かけ、買い物をするなど、リラックスして過ごすことができました。移動手段はバスがほとんどで、犬をそのまま乗せていたり、水着が濡れたまま乗車している人があるなど驚きの連続でした。そして、街を歩いていると気さくに話しかけてくれたりすることが多く、みんな優しくフレンドリーでした。

このプログラムに参加し、英語の力を磨くだけでなく、外国人の友達もでき、異文化に触れることができました。日本では決して得ることができない貴重な体験ができた3週間でした。参加して本当に良かったです。





- 入試情報サイト  
(入試ナビ)
- 大学紹介
- 学部・大学院 / 教育内容
- キャンパスライフ
- 国際交流・留学
- キャリア・就職
- 研究・産学官連携
- 施設
- 社会連携・社会貢献
- 資料請求

## ダブルディグリー・プログラム

石見 優果 国際学部 国際学科国際文化専攻 2年

### 「ダブルディグリー」プログラム

追手門学院大学では、グローバルリーダーシップを有し、国際社会を先導することができる人材の育成をめざし、海外の大学とのダブルディグリー・プログラムを実施しています。ダブルディグリー・プログラムは、追手門学院大学と海外の協定大学の両キャンパスで学び、両大学での履修を修了することにより二つの学位を取得することができる長期留学プログラムです。本年度は、協定大学の一つであるハワイのカピオラニ・コミュニティ・カレッジで長期留学をしている国際学部生の近況報告を紹介します。

## ハワイでの留学生活



### はじめに

留学を始めて3か月たちました。短いようでとても長い期間でした。日本で過ごす3か月とは全く違い、慣れない環境、慣れない土地、慣れない部屋、慣れないルール、慣れない言語に、慣れない授業。最初の1か月は本当に長く感じました。自分が留学前に想像していた生活とはかけ離れていて、全く「きらきら」していないし不安に思う事が沢山あったように思います。

### 現地大学での授業

ハワイの大学での授業は追大とはまた違い、パソコンを使用する機会も少ないですし、先生がひたすら喋るといよりは学生と一緒に進めていくスタイルがほとんどだと思います。そもそも机の配置もグループで生徒同士が向かい合うようになっているので、ディスカッションも多く、自由に発言する機会が沢山あります。ESOL94の授業(英語が第二言語である留学生が対象の授業)はある程度の文法と単語を理解していることが前提での授業です。どの授業でもそうですが、知識があればあるほど役に立ちますし、有利に働くことが多いと思います。

授業時間や担当教員も自分で選択することが可能です。先生によって授業スタイルや課題の量・プレゼンの量も全く違うので、授業内容のテーマは決まっていますが、その他全ては受講する先生によって変わってきます。課題の多さは追大とは比べ物にならないぐらいに多いです。基本、毎日1つは課題があり、日によって難易度もバラバラです。すぐにエッセイに取り掛かるという事はなく、モジュールによって具体的なテーマが決まっています。それについての学術論文をまずは理解し、トピック・ボディ・コンクルーディングと分けて一度自分で考え、先生に提出し、添削して頂いた内容を踏まえて本番のエッセイを書き始める、という流れが一般的です。最終エッセイを書くのに1週間かかると思います。一つ一つを細かくチェックしてくださる先生なので、マーカーペンでダメだされている箇所は多いですが、エッセイに関する知識は増えます。また、フォーマル・インフォーマルといってエッセイに使用することができない英単語もあります。例えば、自分の頭の中には「良い=GOOD」という図式が定着していましたが、「GOOD」はインフォーマルなのでエッセイの中で使用することが出来ず、「Excellent」など同じ意味の違う単語を使用する必要があります。このような経験を重ねて、自分の脳の辞書に多くの単語が蓄積されていきます。



#### 最終テストに向けて

今は 11 月後半で中間テストは無事に終了し、最終テストに向けて勉強している時です。基本的にどのクラスも中間はプレゼンテーション、最終はエッセイという形です。プレゼンテーションは個人とするかグループとするかは先生によって違います。私のクラスは個人で一人 8 分以上が課され、スクリプトを見るのは禁止されていました。また、みんながプレゼンテーションに集中するように、終了後にはクラスメイトのうちの誰かのプレゼンテーションについてエッセイを書かなければならなかったのも、みんな集中してメモを取ったりしていました。私にとっては大変でしたが、すごく良い案だと思います。

留学生は誰しも授業に対する不安はあると思います。しっかり授業についていけるのか、聞き取ることが出来るのかなど不安は尽きませんが、留学は全て慣れです。その環境に慣れてしまえば、自然と最初よりも先生の言っていることが理解できる、ディスカッションで話す機会が増えるなど、少しずつ伸びていきます。

#### 留学を考えている皆さんへ

留学の経験がマイナスに働くことは絶対にありません。少しでも興味があり、行きたいという気持ちがあるのであれば挑戦すべきだと思います。異国の地で生活する難しさや言語が通じない悔しさなど、今まで感じたことのない感情と沢山出会うことになります。でも、それは当たり前であり、これも 1 つの経験です。行きたいという気持ちが少しでもあるのであれば是非、行動に移してみてください!



アメリカ Google,Apple

Catherina Allenfant 国際学部 国際学科グローバルスタディーズ専攻 2年

## 「将来への道」を切り開くきっかけとなったアントレプレナーシップ（起業家精神）文化



このシリコンバレー・スタディーツアーは、私にとって非常に興味深く有益な経験でした。シリコンバレーは技術とイノベーションの中心地であり、世界的に有名なIT企業やスタートアップ企業が集まる場所です。このツアーでは、様々な企業を訪問し、最新のテクノロジーの動向やビジネスの成功事例について学びました。特に印象的だったのは、シリコンバレーのアントレプレナーシップ（起業家精神）文化です。そこでは、失敗を恐れず、新しいアイデアを追求し、協力して成長していく文化が根付いています。この文化から多くのことを学びとり、将来へ向けての道を切り開くきっかけを得ることができました。

スタディーツアーに参加した後、私は自分自身がいかに創造的なマインドを持ち、グローバル社会の中でリーダーシップを発揮することができるようになりたいと強く思うようになりました。また、国際ビジネス分野での異なる視点を得たり、新しいアプローチについて理解を深めることができ、これからの私自身のキャリア形成において大いに役立てることができると確信しています。今回のスタディーツアーを通じて得られた貴重な体験、知識や人間関係を、今後の自身の成長と成功に結びつけたいと考えています。

今回のシリコンバレー・スタディーツアーは、9月3日から9月11日まで開催され、日本の各大学から39名、追大からは私1名が参加しました。

開催地であるシリコンバレーは、カリフォルニア州サンフランシスコ湾エリアの南部に位置し、IT産業を支える革新、技術、起業精神と密接に結びついた地域として知られています。ここには、Apple、Google、Facebookなどの世界的に有名な企業がここに本拠地を置くなど、数えきれないほどのテクノロジー企業、スタートアップ企業や、ベンチャーキャピタル企業が集まっており、まさにイノベーションの中心地となっています。



シリコンバレーを歩けば、テクノロジーの息吹を感じることができます。新しいアイデアが芽生え、次世代の技術が生み出されています。ここに住む人々は、イノベーションへの情熱を共有し、一緒に未来を築いていることに誇りを持っています。シリコンバレーは、テクノロジーを生み出している人々の聖地であり、その魅力に引き寄せられる研究者・技術者や起業家・投資家が世界中から集まっています。ここでは、未来への無限の可能性やエネルギーを肌で感じることができました。

短期間のスタディツアーでしたが、Apple本社（ビジターセンター）、Computer History Museum、Google 本部キャンパス、日系IT企業の「NTT DATA」、スタンフォード大学、シリコンバレーベンチャーキャピタル・Pegasus Tech Ventures等への視察訪問研修や、サンフランシスコ・ベイエリアでのフィールド・リサーチ等が実施され、プログラムは非常に充実していました。

### 1. Apple Park Visitor Center

Apple 本社の特徴的な円形の建物、いわゆる「宇宙船」本社の美しい景色を一望することができる本社キャンパス内のビジターセンターを見学に行きました。Appleらしいモダンでシンプルなデザインが際立つ大きなガラスのパビリオンが迎えてくれます。そこでは、Appleの製品やテクノロジーに関するインタラクティブな展示物がたくさんあります。Apple Storeでは、最新の製品やアクセサリを手に入れることができ、お土産（Tシャツなど）を買うこともできます。

### 2. Computer History Museum

この博物館では、コンピューティングとテクノロジーの歴史に関する貴重な資料や文献を保管・展示しており、そのコレクションは本当に圧巻でした。ここでは、コンピュータ技術がどのように進化・発展し、私たちの日常生活にどのような影響を与えてきたかをつぶさに見ることができます。

### 3. Google 本部キャンパス

Googleの本社、通称Googleplexは、未来のテクノロジーの聖地でした。Googleplexは、まさに驚きのオアシスです。オフィスビルが広がり、周りには美しい自然が広がっています。ここは、働く場所としてだけでなく、創造性が芽生え、新しいアイデアが生まれる場所としても有名です。アンドロイド等のアイコン的な彫刻が点在している広大なキャンパス内では、Googleの社員がブレインストーミングを行うなど、日々協働しイノベーションを実現しています。

### 4. NTT DATA

日系IT企業のNTT DATAでは、どのようにしてグローバルなIT企業に成長したのかという魅力的な企業発展や企業戦略に関する話をお伺いすることができました。その話がとても刺激的だったので、スタッフとの議論に思わず身を乗り出し、没頭してしまいました。

### 5. Stanford University

スタンフォード大学の広大なキャンパス内で、スタンフォード大学で活躍している日本人研究者の石川氏、玉巻氏、および小谷氏による講演がありました。その後、膨大なスタンフォード大学の出版物やアパレル等のグッズが多数販売されている大学の書店へ向かいました。そして、私にとって今回のスタディツアーの最高の瞬間となったスタンフォードメモリアルチャーチを訪問しました。その見事な教会建築は人間の創造性と巧妙さが融合した「建築の驚異」として私の目に映りました。イタリアのロマネスクとビザンチン建築様式が絶妙に組み合わせられた教会の空間の中でインスピレーションに似た感覚を得ることができました。

### 6. Pegasus Tech Ventures

Pegasus Tech Venturesでは、ベンチャーキャピタルとイノベーションの世界に没頭することができました。Pegasus Tech Venturesのチームはプレゼンテーションの中で、彼らの投資戦略について区詳しく説明してくれました。特筆すべきことは、SpaceXへの巨額投資で、宇宙開発における画期的なベンチャーをサポートする未来への投資でした。ベンチャーキャピタルの意図と、技術革新のダイナミクスについてスタートアップが直面する課題等を理解することができました。

その他、スタディツアーでは、ベイエリアを中心に、Santana Row（ショッピング、ダイニング、エンターテインメント地区）の訪問や、San Franciscoでのフィールド・リサーチ等を実施しました。



## 7. 起業ビジネスプランのプレゼンテーション

シリコンバレー・スタディツアーでは、オンライン事前研修で知り合った参加者とのリアルな出会いを通じて、友好的で生産的な関係性を短時間で築きあげることができました。また、シリコンバレーの訪問や研修プログラムを通じてその絆をさらに深めることができました。特に、ツアー最終日には、研修を通じて得られた知見や情報、人間関係などを活用し、グループで独自の起業ビジネスプランを作成し発表しました。私たちのグループは、日本でより多くの革新的な機能を備えたサービスを提供するというビジョンに基づき、写真・動画のクラウド共有と、そのために「OBU」と命名したフリマアプリを実際に試作し紹介しました。審査の結果、1位を逃し2位になりましたが、貴重な学びの機会となりました。発表後、グループでビジネスプランの背後にある「なぜ」や「気づき」を十分に説明し得なかったことが原因であったという分析を行うなど、この経験が、自分自身の成長のきっかけとなり、また、効果的なコミュニケーションを行うことの重要性について大切な教訓を得ることができました。

このプログラムを通じて、米国で成功を収めた日本人の講演を数多く聞く機会に恵まれました。B-BridgeのCEOである榎本博之氏、Googleエンジニアの佐藤公一氏や、Mizuho USAの植松裕貴氏の講演、スタンフォード大学の石川氏、玉巻氏、および小谷氏による講演などです。また、Dr. Bruce Patonによるデザイン思考のワークショップにも参加しました。

これらの講演から、アメリカに来た日本人の多くは、アメリカで成功する自分の姿を想像していなかったように感じました。彼らの多くは言語や文化の違いからくる困難を抱え、失敗を経験しながら試行し続け、多くの人々に開かれた心と姿勢を持ち続けることで、最終的にアメリカで成功することができました。これらの人々から受けた多くのアドバイスや感動を胸に、自分の「将来の道」を切り開いていきたいと強く願っています。

My Silicon Valley Adventure: Exploring Innovation and Entrepreneurship

Faculty of International Studies

22WA119 Catherina Allenfant

I'm excited to share my recent journey into the heart of innovation: Silicon Valley. As part of a global business concentration package program, I participated in a Silicon Valley Study Tour in September.

Silicon Valley, renowned for its innovation and home to tech giants like Apple, Google, and Facebook, is where groundbreaking ideas thrive, and the next generation of technologies takes root. Being in Silicon Valley feels like stepping into the future, making it a mecca for tech enthusiasts.

The study tour was packed with exciting visits to some of Silicon Valley's iconic places, including:

- Apple Park Visitor Center: With stunning architecture offering views of the "spaceship" campus.
- Computer History Museum: A treasure trove of tech history.
- Google HQ Campus: A futuristic oasis of creativity.
- NTT DATA: Providing insights into tech industry success.
- Stanford University: Featuring lectures and exploration.
- Pegasus Tech Ventures: A deep dive into venture capital.
- Santana Row: An experience of luxury shopping and dining.
- San Francisco: Exploration of the city's landmarks.

One of the most profound realizations came from listening to the stories of successful Japanese individuals who achieved success in the United States. Many of them didn't initially envision their success there. They faced adversity, encountered failures, and grappled with the challenges of adapting to a new language and culture. Nevertheless, their unwavering determination and commitment to learning paved their path to success. Their advice has inspired me to discover my true passion and begin planning for my future.

My Silicon Valley Study Tour transformed me, igniting a desire for creativity and leadership. I'm eager to apply my international business perspective in my future endeavors. Silicon Valley's entrepreneurial culture, which thrives without the fear of failure, has left an enduring impact, motivating me to seize opportunities and continue my journey toward success.



入試情報サイト  
(入試ナビ)

大学紹介

学部・大学院 / 教育内容

キャンパスライフ

国際交流・留学

キャリア・就職

研究・産学連携

施設

社会連携・社会貢献

資料請求

オーストラリア Adelaide, elementary school

坪井 海妃・宮崎 遥平・會澤 堅進 国際学部 国際学科 国際文化専攻 2年

## 教えるための英語力を育成し日本の文化を発信！



### 1. 授業参観を通じたTESOLの学習

このプログラムでは、留学先の語学学校や現地の小学校で実践されている英語が母語でない子どもたちに対する英語の授業の参観を通じて、TESOL（非英語話者に対する英語教授法）の理論や教授法を学びました。小学校では、英文法の学習ではなく、日本の小学校英語の授業にも参考になるフォニックスを利用した音声中心の授業が展開されていました。

### 2. Japanese Culture Workshop

私たちは、日本の文化を語学学校の学生に知ってもらうためのワークショップを開きました。事前にチラシを作成し、各教室に訪問して宣伝を行いました。当日は、留学生11人、日本人の友達4人、オーストラリアの大学の先生1人の計16人が参加してくれました。日本の文化として、おりがみ、福笑い、割り箸鉄砲を紹介しました。留学生は日本の文化や伝統的な遊びにとっても興味を持って取り組んでいました。

### 3. ホームステイについて

ホストファミリーと過ごす時間が、留学生活の中では最も長く、有意義でした。語学学校では日本以外の国からの留学生もいましたが、日本人学生も多く、ホストファミリーと過ごす時間が英語力を伸ばす絶好の機会となりました。日本と異なる文化にどっぷりと浸ることで、新しい考え方や生活習慣等を直接知ったり、体験したりすることができました。特に、ホストファミリーは私たちが客人として迎えるのではなく、家族としてあたたかく迎えてくれました。留学に行く前は自分の英語が通じるか不安でしたが、ホストファミリーは私たちのつたない英語をしっかりと受け止めてくれ、気がねなく話すことが出来ました。



入試情報サイト  
(入試ナビ)

大学紹介

学部・大学院 / 教育内容

キャンパスライフ

国際交流・留学

キャリア・就職

研究・産学官連携

施設

社会連携・社会貢献

資料請求

高野山大学・OIDAI グローバルプロジェクト

## HINDUPUR SRINIVAS GAUTAM 国際学部 国際学科グローバルスタディーズ専攻 1年

高野山大学・OIDAI グローバルプロジェクト

「高野山大学・OIDAI グローバルプロジェクト」は、世界遺産の「高野山」にある高野山大学と追手門学院大学とのグローバルプロジェクト、および、大阪府立長野高校との高大連携プログラムとして、本年度、国際学部 に在籍しているインターナショナルスチューデントが中心となり、diversity と mutual understanding をキーワードに実施した英語教育・国際理解教育プログラムです。

「Koyasan Project & Study Tour」

### Koyasan Project & Study Tour



As the year 2023 comes to an end, this particular year was filled with several memorable moments and experiences which most of us will cherish lifelong. With the great blessings of the revered saint Kobo Daishi and Shakyamuni, Oidai presented the foreign students with a wonderful opportunity in summer to be a language partner for the high school students and university students belonging to the Koyasan University, Kawachinagano Campus. This was followed up with a tour of the auspicious Mt. Koya in Wakayama Prefecture which created indelible memories and a learning experience unlike any other. This project and trip helped us personally grow and forge new bonds with students and gave us a window into the esoteric past of the country.

#### Koyasan Project

The Koyasan project was started as a joint initiative in the summer of 2023 (from August 28th to September 2nd) between Otemon Gakuin University and the Koyasan University. Matsumiya Sensei from the Department of International Studies was extremely kind in providing the foreign students with a paid internship as a speaking partner to help other students. The students were welcomed with open arms by the students and the faculty at Koyasan University Kawachinagano Campus. The campus, which was in a picturesque region of southeast Osaka, had a pleasant and calm environment which eased any stress prior to the arrival. The Oidai students took turns within the period to serve as English speaking partners.



This program which was taught by Matsumiya Sensei was geared towards helping the nearby high school students and the university students with their English skills which involved speaking, writing and presentation preparation. The primary goal of the program was to make friends, gain confidence and enjoy the language learning process. The students were first given a mock TOEIC test to help assess the shortcomings and gain confidence in one's strengths. The course also featured several tongue twisters and debate sessions based on Ablish articles. Although this seemed difficult for the students, the language partners put forth their best efforts to help assess and improve their confidence while expressing their opinions. Although the high school students spent only first two days of the program, they were rewarded for their efforts, and some have expressed interest in pursuing their English language journey. The university students were further aided with their writing and presentation skills. Throughout the course, Oidai students also received delicious organic bread and snacks. This entire course was focused with the goal of learning and practicing knowledge from an international perspective.

Overall, the program helped me to gain a new perspective on language learning and the idea of integrating this learning with others so that we can jointly win as opposed to doing it individually. Furthermore, it helped us forge new bonds and friendships.

#### Koyasan Field Trip

After the successful project, Koyasan University invited all the foreign students from the Department of International Studies to visit the sacred and holy Mt. Koya in Wakayama. This tour was not only a reward for the project but also a paramount learning experience for the students about Japanese culture, Buddhism and history. The tour which was held on November 19th covered Koyasan from Okunoin to Kongobuji. Throughout the entire trip, Mr. Nakayama, a student at Koyasan University and a monk in training played an indispensable role in sharing the significance of Koyasan and the culture that is embedded there. Although located quite far from downtown Osaka, the train ride through Nankai Koya line and the cable car ride to the mountain was extremely enchanting and captivating. It is known that Koyasan is considered as the most sacred spot in Japanese Buddhism and is home to the Shingon sect (an esoteric sect originating from ancient China with its base teachings from India). This sacred atmosphere can be felt upon arriving at the cable care station which features vibrations unlike elsewhere.

Upon meeting Matsumiya sensei and Mr. Nakamura, the students were given a guided tour starting with Okunoin. Located on the eastern end of Koyasan, Okunoin is the tomb of the revered saint Kobo Daishi (also known as Kukai) who was the founder of the Shingon sect. Okunoin also features that largest graveyard in Japan with the ashes of important personalities buried here. It was astonishing to note that the remains of the daimyo Oda Nobunaga and Toyotomi Hideyoshi are buried here. Okunoin deals with beliefs of life and death from Shingon perspective. The site features unique superstitious areas and teachings of life, death and the subsequent afterlife. Okunoin also surprisingly features unique tombstones dedicated to the founders and workers of corporations such as Nissan, UCC, Yakult which is quite unique to Japan.

After a delicious meal, the students were taken to Kongobuji and the main hall. Kongobuji being the head temple features scrolls featuring important saints, the various deities and Shakyamuni Buddha in his various avatars. Although Shingon has various teachings which might differ from other sects such as Pure Land Buddhism, the underlying principle remains that Buddha is in all of us and necessity to understand the concept of nirvana or enlightenment. The teachings of Shingon and Kukai which were based on Indian philosophies and Sanskrit scripts played a key role in lives of people during Heian period and continue to do so in the present day. The complex featured smaller temples and a holy tree which is said to be the mystical beginning of Koyasan. Several of us were blessed with good omen at the tree while searching for the holy branches nearby. Throughout the entire tour, Mr. Nakamura's passionate and detailed explanation helped the students understand the relevance of Koyasan. The tour ended with a group photograph in front of the statue of Dr. B. R. Ambedkar at Koyasan University main campus. The statue was dedicated to the architect of Indian constitution and a torchbearer of equality in India whose philosophy was heavily influenced by Buddhism.

As we reflect, this tour had an unimaginable impact as it offered a spiritual and a historical perspective into Japan. To understand Japan and the concept of glocalism, it is highly essential to understand philosophy, religion and culture which are dear to locals. This tour was eye opening and mesmerizing in ways unlike any other.

### Reflection

The project helped me to understand various perspectives of language learning. Matsumiya Sensei's motto of learning and speaking in an intelligible manner as opposed to being perfect was something that stuck with me dearly. It is necessary for the students overcome the idea of perfectionism and understand that accents are not a handicap but one's identity. This project rewarded with me ideas on what I can do to become a bridge between India and Japan or Japan and the rest of the world. In terms of Koyasan trip, I strongly believe that Shakyamuni blessed all of us as the trip was rewarding in many ways. These cultural trips help create an image and perspective which may not be possible through books. Learning more about a particular place helps build a new sense of appreciation for the place. I am extremely thankful to Matsumiya Sensei for offering us this wonderful and authentic experience and acting as a pillar of support throughout the entire program. I want to thank Professor Obino, faculty and students at Koyasan University for welcoming us and taking part with us. I want to thank Mr. Nakamura for taking time out and passionately explaining Koyasan which helped us gain a new sense of appreciation for the place. I finally wish to personally thank my classmates for joining me in this beautiful journey and creating lifelong memories.

Based on learning outcomes and gained experiences, my advice to other students is to take part in such programs and not miss such opportunities offered by Oidai.





- 入試情報サイト  
(入試ナビ)
- 大学紹介
- 学部・大学院 / 教育内容
- キャンパスライフ
- 国際交流・留学
- キャリア・就職
- 研究・産学官連携
- 施設
- 社会連携・社会貢献
- 資料請求

### 3大学合同プロジェクトに参加して

江川 慶/橋本 清加/齋藤 翔太 国際教養学部 国際教養学科 3年

#### 知的財産判例セミナー(3 大学合同プロジェクト)

知的財産判例セミナー(3 大学合同プロジェクト)は、知的財産判例研究を目的とした山口大学、金城学院大学、追手門学院大学の 3 大学による合同プロジェクトです。法律が専門ではない学生が約半年間のプロジェクトを通じて身につけたものは何か?是非、ご一読ください。



#### はじめに

2023 年 Research Project 1&2(足立ゼミ)では、知的財産や契約のことについて研究しています。特にあらゆる活動にかかわる法的な保護の仕組み及び企業がそれを何に活用しているのか調査・研究しています。今回の3大学合同プロジェクトは、足立ゼミの活動としてクラスのなかで我々3名が参加しました。本稿では 3 大学合同プロジェクトについて報告します。

#### 3 大学合同プロジェクトの概要

まず、3大学合同プロジェクトの概要について説明します。このプロジェクトには、山口大学(山口)と金城学院大学(愛知)、追手門学院大学(大阪)の 3 つの大学の学生が参加しました。プロジェクトの大きな特徴は、どの大学の学生も法律が専門分野ではないこと、また各大学が単独でそれぞれチームをつくるのではなく、3 大学の学生の混成で A・B・C3 つのチームが編成されたことです。

このプロジェクトでは、知的財産判決を取り扱い、それぞれのチームはひとつの対象事件について研究します。判決についての理解度や考察力が非常に重要であり、専門分野でない学部や学科に所属する私たちが知的財産権判決を研究するには、約 5 か月の期間を要しました。

8 月から始まったプロジェクトは 12 月に行われる最終発表会を目標にスタートしました。まずはそれぞれが判例研究とはどのようなものか知ること、次に各チームで研究対象とする裁判例を選ぶところから始めました。そして各チームが、最終発表に向けて隔週で Zoom ミーティング、10 月に Zoom での中間報告レビュー、11 月に金城学院大学で対面による中間報告会を行い、各チームの進捗について確認しました。これらの機会では、各大学の先生方にコメントやフィードバックをいただきました。各チームの判決に対する内容だけでなく、発表準備やその姿勢についてご指導をいただき、プロジェクトの体制を整えるきっかけとなりました。

3 大学の混成チームだからこそ、判例研究に対してさまざまな知見を持ち寄り研究できたと思います。



#### 中間報告レビューと中間発表会

次に、11月23日の中間発表会までの道のりと中間発表会を終えた時点での報告を行います。

10月26日のZoom中間報告レビューから中間発表会までに1か月程度あり、先生方からのコメントでズタボロにされたスライドを直す作業に多くの時間を費やしました。チームのメンバーで全員が参加できる日はいつかなど連絡を取り合い、時間が空いていたらその日の何時間かをZoomの時間に費やし話し合いながらスライドを作成していくという作業をひたすら行いました。

そして、中間発表会の日になり、自分たちが作れる渾身のスライドを発表しに金城学院大学に行きました。そこでチームの仲間と初めて対面で顔を合わせました。これまでずっと画面上で切磋琢磨しながらプロジェクトを行ってきた仲間に会えるのはとてもうれしかったのを覚えています。それと同時に、今から発表かという不安もありました。

中間発表会当日は、発表までは時間が割とあり、それまでに発表練習やスライドの最終調整を行いました。全部のチームが自分たちの力を発揮できたと感じていた、と思います。ただし、発表が終わるまでは…。

発表が終わるとダメ出しが山のようにありました。そして、私たちは何も言うことができず、最終発表にむけてまたやり直しをしていくこととなりました。

#### 最終発表会

このプロジェクトを通して、私たちは諦めずに何事にも考え抜くことを力として身につけることが出来ました。先生方からのご指摘に考え悩むこともありましたが、常に新しい情報を取り入れ、考え抜くことでどんな壁にも対応していきました。12月21日の最終発表会まで残された時間は多いものではありませんでしたが、メンバー全員が各個人の見解を考え抜くことでメンバーの知恵は文殊の知恵となり、納得のいく考察を生み出すことが出来ました。

最終発表は、プロジェクトの参加学生だけでなく、外部からも視聴を受け付ける公開のリモートセミナーとなりました。発表後のコメントでは、セミナーの後援企業の方や山口大学総合科学部のデザイン関係の先生からもコメントをいただきました。大学の授業の中では、社会の大人と交わることは少ないため、とても貴重な経験となりました。

それぞれの学生がひとつの判例研究をチームでつくりあげるという目標を成し遂げられたと思います。

#### おわりに

最終発表会での発表はすべてが完璧だったわけではありません。決められた時間の中で行うリモートセミナーでは、機材トラブルや対面を完全に代替することのできないコミュニケーションがあったはずですが、そのなかで、問題が生じたときは、各チームが臨機応変にカバーし、最終発表を円滑に運営することができたと考えます。

活動を終えての最終的な成果としては、それぞれの学生がひとつの判例研究を深く考え、チームでつくりあげるという目標を成し遂げられたことです。3大学の学生の混成のチームでは、自主的に考え行動する力や他者と協力し課題に取り組む力が身に付きました。3大学合同プロジェクトで学んだことは、これからのグループ活動に大いに活かしたいと考えます。

当日の様子や各大学の学生らの感想は以下のHP上にも掲載されています。

#### ■金城学院大学

<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/news/detail/?id=1776>

#### ■山口大学（ビジネス著作権検定を運営するサーティファイ社HP）

<https://www.sikaku.gr.jp/bc/pbl/2023/>

追手門学院大学  
国際学部物語  
国際学部の豊かな学び(2023)  
2024年7月発行